

Title	マルコ・ポロの旅行記に就て
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.3 (1931. 9) ,p.174(516)- 174(516)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19310900-0174

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

マルコ・ポロの旅行記に就て

歐人日本に關する記述の見ゆる初期の文獻としてマルコ・ポロの旅行記が、吾人に貴重な資料であることは云ふまでもない。マルコ・ポロ研究は、最近フイレンチエのベネデット教授が、Marco Polo, II Milione, (prima edizione integrale a cura di Luigi Roscolo Benedetto, Firenze, 1928) を公刊し、その寫本の種類、系統、性質等を精細に研究し、之にその寫本の中最も有名な巴里國民圖書館寫本一一一六號の本文全部を精密な附註、他の寫本より増補した章句を添えて版にしたので多大の裨益を受くることとなつた。教授の意見に従ふとマルコ・ポロがゼノアの牢獄で仲間囚人に彼の東邦見聞談を口述筆記せしめたこと云ふ傳へは、誤りであり、巴里本のもことなつた原本の作者は、ピサ人のルスチケロ Rustichello と呼ぶ小説作家であり、ポロの供給した材料を慎重に綿密に按配してローマンス風に書き綴つたのである。巴里本は、かくして成立した原本の後期の寫本であり、現存の諸本が全てこれから起源したわけではない。巴里本と同朋である他種の今日存せざる寫本の上に立脚したものがあつた。ベ氏は、これを分類し、先づ巴里本にごく似た或一寫本(F₁)から發出した一群(The Gregoire Version パウチエ、ユールの基いた寫本はこの系統に屬す)及びやはり巴里本に類似し今日存せざる一寫本(F₂)に基き、十四世紀の初めトスカニ語に譯された寫本群(The Tuscan Recension)同じく同種の寫本の一異本(F₃)、ビビノの宣傳によりマルコ・ポロの原本として信ぜられたものに基き(今日存せず)世上に弘く流布し、印刷にも附せられ、各國語に譯せられた約八十種以上に達する現存本を包含する一群(The Venetian Recension)及びラミュージオが十六世紀にその旅行叢書の中に入れて出版した版の基礎となりし全く異種の寫本群(Ramusio's Version and ante-F phase)の五種に分ちた。此中校訂に殊に重要なものは、最後のものであり、ラミュージオは、その出版に際し、ビビノ本を底本としたが之を増補するに四種の寫本を以つてした。これには善惡の差があるが、ベ氏が、Z₁と名づくる寫本は、今日亡失せるものであり、ベ氏が幸ひにこれに近きラテン寫本 Z をミランで發見した。これは巴里本より一層原本に近きものであり、今日存せざる初期のテキストの遂字譯であることは疑ひなく、たゞ初めの部分が省略であることは、遺憾であるが、人名地名巴里本の如くくづれず、巴里本になき章句を含んでゐる。他の三種の異本も價值これより劣るが矢張り同一系統に屬する。全體として寫本 Z₁ は、民俗的記述に富み、恐らく後の寫本に於てこれが省略せられたるは教會の影響に基き考へられる。之を要するにポロの旅行記の最も完全なるものは巴里國民圖書館本を底本として、ラミュージオ本をもつて増補し、その他の寫本だけに見ゆるごく僅少な章句を補足したものに他なく、此點に於て、ベネデット氏の校勘本は實に吾人の年來の希望を満したものに外ならぬ。(此ベ氏の意見は、パンツァー氏が、フランプトンのマルコ・ポロ旅行記の復刻本の序論中に要略した所に従ふ The Travels of Marco Polo, translated by John Frampton, editor: N. M. Panzer, 1929, London) ベ氏の本は各圖書館に一本を必ず備へる必要ある良書である。(松本信廣)